

令和5年度の教育委員会の取り組み方針

教育長：重松 司郎

教育次長：藤井 和重、漁 修生

教育委員会の役割

教育委員会は、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を備えた「生きる力」にあふれた子供の育成を基本に、家庭・地域、校種間、教師同士のつながりを築き、子供の育ちと学びを支えるとともに、安全・安心な学校生活を送れるよう、教育環境の整備充実に努める。

令和5年度の重点目標

学校教育では、体験を通じた学習やICTの活用により、主体的かつ協働的な学びの充実に努めます。不登校対策では、教育支援センター「あすなろ」を、施設ごとに特色を持たせるとともに、新たにオンライン支援など、ニーズに応じた支援に取り組めます。また、学校で安心できる居場所「サポートルーム」の設置を進めます。特別支援教育では、支援員や看護師など人材の適正配置を図ります。全ての児童生徒が、安全で安心して学校生活を送れるよう、古くなった校舎の改修やトイレの洋式化を計画的に進めます。また、放課後に自由で自主的な活動ができる「放課後キッズルーム事業」を地域と連携し、未実施の小学校への導入に努めます。

市民の皆様へのメッセージ

(重松)

アフターコロナの教育として、地域の人々や保護者等、多様な人々と協働することで「社会に開かれた魅力ある学校」づくりを目指します。そのために、子供にとって「学びたい」、保護者にとって「通わせたい」、地域の人にとっては「協働したい」、教職員にとって「働きたい」場所になるよう努めてまいります。

(藤井)

令和3年4月に教育委員会の配属となりました。現在、多くの校舎が古くなり、和式トイレも多く残っています。また、学校は災害時の避難所に指定されています。少しでも快適に学校での生活を送れるよう、環境にも配慮した学校施設の改善に取り組んでまいります。

(漁)

教育委員会に勤務して4年目になります。すべての子供たちが「笑顔で通える」、保護者や地域の皆さんが「協力したくなる」、教職員にとって「働き甲斐ある」学校園となるよう努めてまいります。

